# サルモネラの分布に関する調査研究

自 坂 昭 治。玉 崎 幸 二。本 庄 重 男。久池井忠男

Distribution of Salmonella

SHOJI SHIRASAKA, KOJI TAMASAKI, SHIGEO HONJO and TADAO KUTII

#### I まえがき

家畜におけるサルモネラの分布に関しては同学の人々によつて作られた「動物の腸内細菌委員会」に依る綜合的研究が昭和26年以来継続的に実施され、その成績は第35回日本獣医学会(昭和28年4月)以来逐次同学会にて委員代表越智勇一等によつて発表され、それらの講演要旨も亦逐次日本獣医学雑誌に発表されつつある。又昭和29年度文部省綜合研究「家畜サルモネラ症の診断及予防」中の一種の研究項目として家畜サルモネラの分布が取り

上げられ、その成績は文部省総合研究報告集錄(昭和29年度、農学編)に報告されている。われわれは前述した両者の綜合研究の一環として主として茨城県上浦市周辺地区の家畜のサルモネラを、従として腸内細菌叢を1953年9月以来継続的に調査研究しているので、1953年9月から1955年6月までの調査成績を取りまとめて弦に報告する。

## II 調查材料

第 1 表

分雕菌の性状検索基準表

		Til			,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,		1	1	1	I	1		ī	1	1	
t	生	科 状	属	種	別	Eschericheae	Salmonella	Proteae	Es. coli	Es. freundii	Klebsiella	Cloaka	Hafnia	Providencia	Proteus	Arizona
クリ	ラ	ŋ	۲	_	ス	+	_	_	+,-	+,-	+	-,+	_	-	_	×
か ラ	グ	ル	2	_	ス	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
1	ガ				ス	+,-	+,-	+,-	+	+	+,-	+,-	+,-	+,-	+,-	+
培地	硫	化		水	素	+,-	+,-	+,-	_	+	_	-	-,+	_	+,-	+
サ	ルモネ	. <del>ラ</del> (	)-多	価 血	上 清		+	-	_	_			_		_	_
尿	•	素		分	解			+		-,×	+	-,+		_	+	
₹	ン	=	ツ	ト 分	何年				+	+	+	+	+	_	_	+
1	ン	۴		ル産	生				+	-	-			+	+,-	_
7	オーゲ	゚ゝ,プ	ロス	カウワー	反応					-	+	+	-,+		-,+	
Х	チ -	- ル,	レッ	' F 1	式 験				+	+	_		-,+	+	+	+
シ	モン	クエン	酸ソ・	- ダ培地	試験					+	+	+	-,+	+	-,+	+
サ	ツ	カロ	_	ス分	- 解			*	-,+	-,×	+	+	×	×	+,-	_
ラ	þ	٢	_	ス 分	解				+,-	+,-	+	-,+		_		×
グ	n	2		ス 分	解				+	+	+	+	+	+	+	+
K	CN			討	: 験					+	+	+	+	+	+	
運	動性	(半流	<b>花動</b> 5	音地 培	養)				+	+	_	+	+	+,-	+	+

(註) (1): ×の符号は遅延陽性を示す。

(2): 2ケの符号はその何れかである事を示す。

- 1) 猫:家庭飼育の健康猫で採便棒によつて採取された直腸糞。
- 2) 豚:主として土浦圏場での食肉用圏殺豚で、解体 後採取された直腸よりの糞及び腸間膜淋巴節。
  - 3) 鷄:主として病死の雛で解体後採取された直腸又

は盲腸よりの糞、肝臓、卵巣及び体内遺残卵黄。孵化後約10日前後の雛の死因は明らかでないが、約30日以後の雛の死因は主として**コクシジウム**病であつたと考えている。殺成鷄は1羽でその剖検所見は腹腔内卵墜であった。

第 2 表	家	斋	别	分	雕	成	施工	表
-------	---	---	---	---	---	---	----	---

	検索	年月	家	年	疾		検索材料 及び頭数		ING.	検	Eschericheae				Proteae		Salmon- ellae	
斋	ήε	月	嵛	With the Control of t	病		材	頭		索		iii		sae	ia		Arizona Sal. pullorum Sal. thompson Sal. enteritidis	
н	次	-	頭		有					桃	coli	freundii	siella ta ia	riche	denc	ae	na bullo thom	
別	別	別	数	令	無		料	数	菌	数	Es. c	Es. fi	Klebsiella Cloaka Hafnia	Eschericheae	Providencia Proteus	Proteae	Arizo Sal. 1 Sal. 1 Sal. 0	
洲	1955	2	61	成 猫	健	康	直 腸 糞	61	•	80	19	2	1 2 1	48	7			
White agreement in a second and		4	6	生後3ヶ月	態 (原因不	死 明)	直腸糞	6		12			1 2	3	3	3		
		7	9	成 豚	屠殺	豚	直腸糞	9	-	12			1	8	1	2		
	1954						直腸糞	31		46	1		2	28	2 2	11		
		8	31	"	//		腸間膜 淋巴節	31	14	25	3	1	11	3		6	1	
豚		9	90	_			直腸糞	26		50				26		24		
			26	"	//		腸間膜 淋巴節	26	6	29				16		13		
		10	86	,,	,,,		直腸糞	86		146	5	2	3	76	6 24	30		
			00	"	"		腸間膜 淋巴節	86	33	66	1	3	2 2	30	1 2	25		
		12	81	"	"		腸間膜 淋巴節	81	44	41				30	3	11		
	1953	1	(33) 12	7~10[]	自然	独	直腸糞	12		18				9		9		
				維	日 2公		ЛŦ	9		9				3		6		
		11	1	成 鶏	殺		卵 巣	1		I					1		1	
	1954	7	5	45 日 雛	自 然 (コクシジウ	死 ム病)	盲腸糞	5		5				1		4		
		9	7	30 日 雛			盲腸糞	7		7				4	5	3		
鶏					自 然 (コクシジウ		1715-	2		2				2	1 1000		: .	
天河		a management of the	A second				卵 巣	3		3				3	1		:	
PPRODUCTION		11	74	30 日 雛	自 然 (コクシジウ	死 ム病)	盲腸糞	74		147		2	7	4		71		
	1955		28	10~14[]	es lite	ЭE	遺残卵黃	16		23	1		1	5			7	
		3		翻	自 然		直腸粪	28		38	1	1	7 1	9			10	
			6	1~ 2日	自然	ЭE	遺残卵黄	6	1	5			2				3	
				器性	1   2   2   2   2   2   2   2   2	76	肝	5	1	4				2			2	
アヒル卵	1955	6	(個)	発 7	亨 停	ıĿ	卵 黄	52	16	48	10	2	11	7	1 5	3	9	
ル卵	. 300		146	死		維	//	94	8	92	10	7	28 2	1	19	4	3	

4) アヒル(鶩)の卵:江戸崎地方で産卵された卵の 孵化途中において発育停止、又は死籠りとなつたものの 卵黄(卵黄周囲の物質をも含みその量約 lcc)。 発育停止卵は孵化開始後24日以内のもの(一般に無精卵は孵化 開始後3~4日にて除去される)。死籠り卵は孵化開始後 25~28日ものである。

### III 検索方法

主として調査材料を液体増園培地に培養後、分離培地に培養して細菌を分離する方法に従つて菌分離を行つた即ち増園培地としてはカウフマン培地又は普通ブイヨンを、分離培地としてはクリグラー培地、又はラッセル培地を適宜使用し、必要に応じてサルモネラ 〇多価血清を以つて載せガラス上にての試験的凝集反応を実施した。分離歯に対してのその後の生化学的及び血清学的検討は常法に従つた。その方法は簡記せば以下の様である。

- 1) 分離菌の性状検索の基準は第一表によつた。
- イ) Escherichia, Klebsiella, Cloaca, Hafnia の何れの属にも同定し得ないがその性状は何れかに甚だ近いもの, 及び検索の都合上第一表に示す Eschericheae の性状のみを検索したものは Eschericheae とした。
- ロ) Providencia, Proteus の何れの属にも同定し 得ないがその性状は何れかに甚だ近いもの及び検索の 都合上第一表に示す Proteae の性状のみを検索した ものは Proteae とした。
- 2) サルモネラの 血清学的 検索 即ち サルモネラ の

Type の決定及び分離菌の一部のものの属名又は種名決定は動物の腸内細菌委員会のセンターである農林省家畜衛生試験場村瀬信雄氏、坂崎利一氏の御協力御援助によるものである。

#### IV 成績及び考察

分離し得た Eschericheae, Proteae, Salmonella は第二表に示す通りである。

- 1) 猫:家庭飼育猫61頭の直腸糞からサルモネラを分離し得なかつた。
- 2) **豚**: 圏場圏殺豚 233 頭中の直腸糞 152 例, 腸間膜 淋巴節224例から**サルモネラ**を分離し得なかつた。然し<sup>1</sup> 頭の腸間膜淋巴節から Arizona 1 株を分離し得た。
- 尚, 仔豚 6 頭の直腸糞からも**サルモネラ**を分離し得なかつた。
- 3) 鷄:1 羽の成鷄の卵巣(腹腔内卵墜)から Sal. pullorum を分離し得た。30~45日ひな86羽(コクシジウム病死と推定される)からサルモネラを分離し得なかった。1~14日ひな(自然死)46羽の体内遺残卵黄,直 腸糞, 肝を検索材料としてその13羽から Sal. thompsonを分離し得た。
- 4) アヒルの卵:孵化途上のアヒル卵の発育停止,死 籠卵 146 箇から12株の Sal. enteritidis を分離し得た。 このことはアヒル卵と人の食中毒との関連性,或はアヒル卵の孵化率と Sal. enteritidis との関連性等を示唆するものであると考えている。

#### Summary

Some investigations on Salmonella distribution in several animal species in the western district of Ibaraki prefecture were performed during the period from September 1953 to May 1955.

Data are summarized as follows.

- 1. We could not isolate Salmonella organisms from rectum contents of 61 normal cats.
- 2. We could not isolate Salmonella organisms from rectum contents (152 samples) and mesentric lymph nodes (224 samples) of 233 normal pigs which were slaughtered, nor from rectum contents of 6 dead young pigs which were 3 months old. One strain of Arizona organisms, however, was isolated from the slaughtered pigs.
- 3) We could isolate Salmonella pullorum from the hen's diseased ovary, and 13 strains of Sal. thompson from 46 dead chicks' bodies which were 1~14 days after hatching, but not Salmonella organisms from 86 dead chicks which were 30~45 days after hatching.
- 4) We could isolate 12 strains of Salmonella enteritidis from 146 ducks' eggs in incubater which proved to be dead-germs or dead-in-shell-ducks.